

令和 7 年度

「運営に関する計画」 中間評価



大阪市立城陽中学校

令和 7 年 1 1 月

(様式例 1)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

校区には鳴野小学校、城東小学校、中浜小学校、森之宮小学校の4小学校があり、近代的なマンションや集合住宅の多い地域から戦前の古い家並みを残す地域まで、生徒達の生活環境は多種多様である。また、森之宮校区の一部は令和7年秋に「大阪府立大学」と「大阪市立大学」を統合した新大学 大阪公立大学が設立予定であり、森之宮地域を大阪の新拠点（大阪城東部地区）として個性を発揮できる街づくりを進めていくことが計画されている地域である。

令和7年度は生徒数が現在の大阪市内としては大規模校にあたり、各学年5クラス、特別支援学級5クラス通級指導教室1クラスの計21クラスで構成されている。部活動や学校行事では、活気にあふれる取り組みを行っている。

生徒の状況については、保護者の協力などもあり現在はおおむね規則を守る生徒が増えている。これまでと変わらず、校訓である「時を守り、場を清め、礼を正す」を普段から生徒に啓発し、自立を促す指導をすすめていく。また、学校生活の中で、生徒が自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、生徒が思い描く、明るい未来の実現ができるよう、教職員が生徒に関わり続ける授業づくりをめざす。

生活指導の方針として、校内暴力や対教師暴力があった当時の学校が荒れた状態に戻らないようにするため、威圧的な言葉や力による指導に頼らず、生徒や保護者に寄り添いカウンセリングマインドをもって生徒指導に当たることを生活指導の基本柱とし、安全で誰もが安心して通える学校づくりをめざす。

学校行事においては、生徒が主体となった運営をすすめてきた。体育大会・スポーツ大会・文化発表会などの行事に生徒会や委員の係生徒を積極的に参画させることにより、生徒に活躍の場を提供し、主体的に取り組む態度の育成を図った結果、行事は盛り上がり、活気ある学校生活が送れている。この取り組みをさらに発展させ、生徒が自ら考え、企画運営する力の育成をめざす。

学力については、各学年でばらつきはあるが、おおむね大阪市の平均を上回っている。学力向上に向けては、学習の苦手な生徒への自主学習習慣の定着、習熟度別授業を実施し、基礎学力の定着を図る。また、各教科「探究する」学びを実施するとともに「誰一人取り残さない教育」をめざす。

体力については、昨年度は全国体力・運動能力調査において、男・女とも大阪市の平均を下回った。各種目の体力の向上に取り組みながら、運動の大切さを教えていく。

ICT機器を積極的に授業に取り入れるために、平成30年度には全普通教室にプロジェクターを設置、令和元年度はプロジェクター使用時の照度を調整するために遮光カーテンを設置するなどして、ICT機器を活用した学習の質を高める取組を推進してきた。また、数年前から、校内のネットワーク環境が十分ではないため、教室で一部のタブレット端末が使えないことが多かったが、昨年度からそれも徐々に解消されてきている。令和7年度は今まで以上にタブレットを活用した授業を実施していきたい。

今年度は、働き方改革をさらに推進し、「ゆとりの日（18：00 退勤）」を週1回金曜日に設定する。また、学校閉庁日は夏季5日、冬季3日設定、終業式・修了式を一日前倒しを行い、教職員が休みやすい環境整備に努める。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の校内調査において「学校のきまり・規則を守っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 95%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査において「学校が楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 88%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査において、「将来の夢やめざす目標を持っている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 73%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査において校訓の『「時を守り、場を清め、礼を正す」の考えを意識して生活している』の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 83%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度のチャレンジテストにおいて、正答率を大阪府平均以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査において、学校の授業以外で全く勉強しない生徒の割合を 9%以下にする。
- 令和 7 年度の校内調査「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査において、「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70%にする。
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を大阪市の目標値（男子 42.0 女子 51.0）以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 指導方法の工夫により ICT を有効に活用し、令和 7 年度の校内調査における「授業に主体的に取り組んでいる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。
- 令和 7 年度の 1 か月の時間外勤務時間が 8 0 時間以上または直近 2 ～ 6 か月の時間外勤務の平均時間が 8 0 時間を超える教職員を年間で 4 0 人以内にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

○年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を増加させる。

※前年度不登校であった生徒のうち、不登校の状態が改善された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握。

※改善とは、次の状態をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する）

1 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動をするることによる出席認定を含む）

2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。

3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または継続してつながるようになった。

学校の年度目標

○校内調査（保護者アンケート）における「学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を94%以上にする。

○校内調査において、「将来の夢やめざす目標を持っている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。

○校内調査において、学校図書館への生徒の来館者数を前年度より向上させる。

○校内調査において、「先生は、自分の良い点やがんばったことを褒めてくれる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。

○校内調査において、学校目標の「清掃活動を積極的に行っている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を89%以上にする。

○校内調査（保護者アンケート）における「学校は、校内美化など環境整備に努めている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を93%以上にする。

○地域行事への参加を通じて地域住民としての自覚を育み、また、防災・減災教育を地域と共に実施して、災害時に積極的に行動する態度を育てる。

○今年度も特別支援教育のモデル校として、特別支援学級及び通級指導教室に所属している生徒に対するサポートや学力向上に取り組んでいく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- 年度末の校内調査における「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 70%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 70%以上にする。
- 年度内の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 61%以上にする。

学校の年度目標

- 中学校チャレンジテスト（実施教科）において、同一母集団で比較し、標準化得点で前年度を上回る。
- 校内調査（保護者アンケート）における「学校は、食育の推進に努めている」の項目について、肯定的に回答する割合を 92%以上にする。
- 校内調査において、各教科の「ノートをまとめたり、話し合ったり、先生の話をよく聞くことなどで、自分の考えが深まったり、広がったりする」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

ICT の活用に関する目標を設定する。

- 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
- デジタル教材を活用した授業を 50%の教師が実施する。
- Teams を活用した授業を各学年、年 2 回実施する。

教職員の働き方改革に関する目標を設定する。

- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 7 5 %以上にする。
- ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。

学校の年度目標

I C T の活用に関する目標

- 授業工夫により I C T を有効に利用し、校内調査における「授業に主体的に取り組んでいる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。
- 今年度も特別支援教育のモデル校として、特別支援学級及び通級指導教室に所属している生徒に対するサポートや学力向上に取り組んでいく。

教職員の働き方改革に関する目標

- 1 か月の時間外勤務時間が 8 0 時間以上または直近 2 ～ 6 か月の時間外勤務の平均時間が 8 0 時間を超える教職員を年間で 4 0 人以内にする。
- 毎週金曜日を「ゆとりの日」として設定し、1 8 時 0 0 分には教職員の完全退勤を行う

【その他】

- 公共交通を利用し市内施設を巡り、大阪を愛する心や社会的規則を守る態度を育てる。
- 学校のホームページや学年だより等で周知し、「学校は子どもたちの学校での様子や行事、取組みについて、学校ホームページ等を活用して積極的に情報公開している」の項目について、肯定的に回答する割合を 94%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪府立 城陽中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組まず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 90%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>※前年度不登校であった生徒のうち、不登校の状態が改善された、または不登校状態であっても次の 1～3 に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握。</p> <p>※改善とは、次の状態をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する)</p> <p>1 出席日数の増 (学校内外で ICT 等を活用した学習活動を行うことによる出席認定を含む)</p> <p>2 ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。</p> <p>3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または継続してつながるようになった。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○校内調査(保護者アンケート)における「学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」に対して、肯定的に回答する割合を 94%以上にする。</p> <p>○学校評価アンケートにおいて、「自分の将来について夢や目指す目標を持っている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 72%以上にする。</p> <p>○校内調査において、学校図書館への生徒の来館者数を前年度より向上させる。</p> <p>○校内調査において、「先生は、自分の良い点やがんばったことを認めてくれる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。</p> <p>○校内調査において、学校目標の「清掃活動を積極的に行っている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 89%以上にする。</p> <p>○校内調査(保護者アンケート)における「学校は、校内美化など環境整備に努めている」に対して肯定的に回答する割合を 93%以上にする。</p> <p>○地域行事への参加を通じて地域住民としての自覚を育み、また、防災・減災教育を地域と共に実施して、災害時に積極的に行動する態度を育てる。</p> <p>○今年度も特別支援教育のモデル校として、特別支援学級及び通級指導教室に所属している生徒に対するサポートや学力向上に取り組んでいく。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号1、名称 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○「いじめについて考える日」をはじめ、多くの機会に生徒会を中心に新聞づくりなど全校生徒への啓発活動に取り組み、いじめを身近なものとして考え、防止し解消しようとする心や態度を育てる。</p> <p>○生活委員会で朝のあいさつ運動、服装チェック、予鈴遅刻チェックなどに取り組み、生徒からの働きかけを通じて時間や規則を守る意識の向上を図る。</p> <p style="text-align: right;">()</p> <hr/> <p>指標</p> <p>①校内調査において、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている」の項目について、もっとも肯定的な回答する生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>②校内調査において、「学校のきまり、規則を守っている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を向上させ、95%以上にする。</p> <p>③校内調査において、「時間を意識して行動している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向番号2、名称 豊かな心の育成】</p> <p>○道徳の授業を通じて、自他を認め合い、正しい判断の上に立って自主的に行動し、自己の向上に努められる心豊かな生徒の育成をめざす。</p> <p>○キャリア教育を通じて自分にふさわしい進路を選択するとともにその実現に向けて努力しようとする態度を育てる。また、キャリアパスポートの取り組みについて、自分の特性や将来の生き方について考える機会とすべく、円滑な運用を目指す。</p> <p>○学校図書館の開放及び環境整備をより一層進めるとともに図書館オリエンテーションを実施して調べ学習や読書活動の推進を図る。</p> <p>○障がいがある生徒の発達段階に応じた指導や通常学級に所属する生徒との交流を深める。</p> <p style="text-align: right;">()</p> <hr/> <p>指標</p> <p>④令和7年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を0にする。</p> <p>⑤令和7年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒を10人以下にする。</p> <p>⑥校内調査において、「校内、校外に関わらず進んであいさつをしている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>⑦校内調査において、「道徳の時間には考えを深めることができる」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を83%以上にする。</p> <p>⑧校内調査において、「自分の将来について夢や目指す目標を持っている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を72%以上にする。</p> <p>⑨校内調査において、学校目標の「清掃活動を積極的に行っている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を89%以上にする。</p> <p>⑩学校図書館の来館者数を前年度より向上させる。</p> <p>⑪校内調査（保護者アンケート）における「学校はいろいろな人の立場に立って問題解決に努めている。」の肯定的に回答する割合を86%以上にする。</p>	B

取組内容③【基本的な方向番号1、名称 安全・安心な教育環境の実現】 ○地域と連携した防災訓練を行うなど、地域への理解を深める取り組みを実施する。 <div>()</div>	B
指標 12 校内調査において、「災害時には地域の人々と協力して、適切に判断し行動することができる」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を81%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
1 7月のアンケートでは、もっとも肯定的な回答率は51%（1年56%、2年49%、3年49%）であり、目標は達成できなかった。	
2 7月のアンケートでは、肯定的な回答率は98%（1年96%、2年99%、3年98%）であり、目標は達成できた。	
3 7月のアンケートでは、肯定的な回答率は47%（1年57%、2年45%、3年43%）であり、目標は達成できなかった。	
4 10月末時点では、0人である。	
5 10月末時点では、0人である。	
6 7月のアンケートでは、肯定的な回答率は87%であり、目標は達成できなかった。	
7 7月の学校評価生徒アンケートで肯定的な回答は87%（1年88%、2年85%、3年91%）であり目標は達成できている。	
8 7月の校内調査で肯定的な回答の割合は73%であり目標は達成できた。年度当初から自分の将来について考える機会を持った成果だと考える。今後も将来の夢や希望について考える機会を提供したい。	
9 7月の校内調査では肯定的な回答は88%で目標は達成できなかった。今後、清掃活動の意義づけや保健美化委員からの呼びかけ等も行っていきたい。	
10 9月末時点で1,670人(昨年度1,125人)となっている。	
11 7月の校内調査では88%の回答であり、目標は達成できた。今後も発達に課題のある生徒について理解を深める取り組みを行っていきたい。	
12 校内調査で87%の回答があり、目標は達成できた。11月に地域との防災訓練、避難訓練を計画中である。	
次年度への改善点	

年度目標	達成 状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 70%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 70%以上にする。</p> <p>○年度内の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 61%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○中学校チャレンジテスト（実施教科）において、同一母集団で比較し、標準化得点で前年度を上回る。</p> <p>○校内調査（保護者アンケート）における「学校は、食育の推進に努めている」の項目について、肯定的に回答する割合を 93%以上にする。</p> <p>○校内調査において、各教科の「ノートをまとめたり、話し合ったり、先生の話をよく聞くことなどで、自分の考えが深まったり、広がったりする」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号 4、名称 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○「主体的・対話的で深い学びの実現」「知識・技能の育成」「思考力・判断力・表現力の育成」を教科指導の共通の課題とし、習熟度別少人数指導や T・T など指導方法の工夫により、個に応じた指導の充実に取り組む。</p> <p>○課題設定を工夫し、授業以外でも家庭学習など日常的に自学自習する習慣を身に付けさせる。</p> <p>○生徒の発達段階に応じた学習教材、指導方法を工夫し、学力の定着をめざす。</p> <p style="text-align: right;">()</p>	B
<p>指標</p> <p>1 校内調査における「授業がわかりやすく先生は教え方をいろいろと工夫している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。</p> <p>2 校内調査において、「普段、学校の授業以外で全く勉強しない」生徒の割合を 8%以下にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向番号 5、名称 健やかな体の育成】</p> <p>○補強運動の負荷を高めるとともに各単元で柔軟性を高める運動を積極的に取り入れる。</p>	

○日々の給食指導や、各教科の「食」に関する項目の学習活動を通じて、食への関心を高め、健康な心と体を作る態度を育てる。	B
指標	
③男女とも長座体前屈を年2回計測し、記録の向上した生徒の割合を6割以上になるようにする。 ④保護者アンケートで、「学校は食育の推進に努めている」の項目について、肯定的に回答する割合を93%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 7月の調査では98%であり目標は達成できた。今後もわかりやすい授業を心掛け実施していった。 ② 7月の調査では15%となっている。改善に向け、自習学習の習慣をつけることの大切さを指導していきたい。 ③ 1回目の計測を4月に行った。まだ2回目の計測をしていないが、最終評価のときには4月の記録から向上できるように、準備運動での柔軟を意識して取り組ませる。 ④ 7月の調査では、90%となっている。学校ホームページで毎日の給食内容の写真を紹介したり、先生方の協力で、残食量も少なく、生徒はしっかり食べてくれている。	
次年度への改善点	

年度目標	達成 状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>ICT の活用に関する目標を設定する。</p> <p>○授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕</p> <p>○デジタル教材を活用した授業を 70%の教師が実施する。</p> <p>○Teams を活用した授業を各学年、年 3 回実施する。</p> <p>教職員の働き方改革に関する目標を設定する。</p> <p>○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 75%以上にする。</p> <p>○ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>I C T の活用に関する目標</p> <p>○授業工夫により I C T を有効に利用し、校内調査における「授業に主体的に取り組んでいる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。</p> <p>○今年度も特別支援教育のモデル校として、特別支援学級及び通級指導教室に所属している生徒に対するサポートや学力向上に取り組んでいく。(再掲)</p> <p>教職員の働き方改革に関する目標</p> <p>○1 か月の時間外勤務時間が 8 0 時間以上または直近 2 ～ 6 か月の時間外勤務の平均時間が 8 0 時間を超える教職員を年間で 4 0 人以内にする。</p> <p>○毎週金曜日を「ゆとりの日」として設定し、1 8 時 0 0 分には教職員の完全退勤を行う。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号 6、名称 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>○タブレットや I C T 機器を活用した授業づくりを推進するとともに数学や英語などデジタル教材がインストールされている教科や調べ学習などで、生徒が個々に学習できる環境を整備する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>1 校内調査において、「I C T を活用した授業や活動は楽しい」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。</p> <p>2 授業工夫により I C T を有効に利用し、校内調査における「I C T を活用した授業に主体的に取り組んでいる」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向番号 7、名称 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教職員に職務の分担化をすすめるとともに、部活動においても活動日・活動時間を順</p>	

守って働き方改革をすすめる。	
指標	
③ 1 か月の時間外勤務時間が 80 時間以上または直近 2 ～ 6 か月の時間外勤務の平均時間が 80 時間を超える教職員を年間で 40 人以内にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 7 月の校内調査で肯定的な回答をする生徒の割合は 47% であり、目標は達成できなかった。	
② 7 月の校内調査で肯定的な回答をする生徒の割合は 88% であり、目標は達成できた。	
③ 9 月末現在、該当する教職員の人数は 21 人（昨年 51 人）となっており昨年度と比較すると大幅に改善された。今後も、毎週金曜日は「ゆとりの日」とし、啓発を行う。	
次年度への改善点	

年度目標	達成 状況
【その他】 ○公共交通を利用し市内施設を巡り、大阪を愛する心や社会的規則を守る態度を育てる。 ○学校のホームページや学年だより等で周知し、「学校は子どもたちの学校での様子や行事、取組について、学校ホームページ等を活用して積極的に情報公開している」（保 16）の項目について、肯定的に回答する割合を 93% 以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
取組内容① 【基本的な方向 その他】 ○公共交通機関を利用して市内施設を巡り、大阪の歴史や文化に触れる体験を通じて大阪を愛する心や社会的規則を守る心を育てる。 ()	
指標	
① フィールドワークの活動後にアンケートを実施し、取組満足度 80% をめざす。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 2 年生において 12 月 5 日、大阪市内をフィールドワークする予定。	
次年度への改善点	

【国語】

年度目標	達成状況
<p>○中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○毎学期実施する教科アンケートの肯定的回答を1学期より増加させる。</p> <p>○話す力、聞く力の向上を目指す。</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【主体的・対話的で深い学びの実現】</p> <p>習熟度別分割授業を行い、国語の学習への意欲を向上させるとともに基礎学力を定着させる学習活動に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>教科アンケートの「授業では自ら進んで学ぼうとしている」について、肯定的に回答する生徒の割合を6割以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【知識・技能の育成】</p> <p>「言語事項に関わる問題」を行い、正答率を向上させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>定期テストや小テストにおいて、言語事項に関する問題を出題する。</p>	B
<p>取組内容③【思考力・判断力・表現力の育成】</p> <p>多様な作文課題に取り組み、生徒による相互批評を行い、自分の考えを表現する力を養う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>教科アンケートの「自分の考えを話すことができる」「自分の考えを書くことができる」について、肯定的に回答する生徒の割合を6割以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後の改善点	
<p>① 教科アンケートは2, 3学期に実施予定である。</p> <p>② 漢字テストや文法の小テストを授業内で定期的実施し、間違った問題については解きなおすようにしている。また、小テストをふまえて、定期テストに漢字をはじめとする言語事項に関する内容を出題している。</p> <p>③ 教科アンケートは2, 3学期に実施予定である。</p>	

【社会】

年度目標	達成 状況
○本年度のチャレンジテストで学年平均点を府平均以上の点数にする。 ○令和7年度の教科アンケート、各項目において肯定的回答を各学年70%以上にする。	—

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【主体的・対話的で深い学びの実現】 アクティブ・ラーニングを授業に取り入れることで主体的に学ぶ姿勢を養う。	—
指標 ・教科アンケートの「社会の授業では、自ら進んで学んでいる」の項目に対して、肯定的な回答の割合を 70%以上にする。	
取組内容②【知識・技能の育成】 各学年において単元ごとの振り返り学習、課題学習、小テスト等を実施し、基礎学力の定着を図る。	—
指標 ・教科アンケートの「社会の授業はわかる」の項目に対して、肯定的な回答の割合を 70%以上にする。	
取組内容③【思考力・判断力・表現力の育成】 アクティブ・ラーニングや ICT を積極的に活用し、自分の考えをまとめ、表現する機会を増やす。	—
指標 ・教科アンケートの「授業ではノートをまとめたり、話し合ったり、先生の話聞くことなどで、自分の考えが深まったり、広がったりする」の項目に対して、肯定的な回答の割合を 70%以上にする。 ・1 年生や 2 年生の課題で地理新聞や歴史新聞の制作を取り入れる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後の改善点	
【年度目標の達成状況】 3 学期に教科アンケートを実施します。	

【数学】

年度目標	達成 状況
○習熟度別授業を実施し、生徒の学力に合わせた授業を展開し、基礎学力の定着を図る。 ○数学的な見方、考え方に関する問題の正答率を向上させる。	—

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
取組内容①【主体的・対話的で深い学びの実現】 主体的・対話的で深い学びを通して、数学の意欲の向上や基礎・基本学力の定着に向けた学習活動を行う。	—
指標 校内調査を行い、「数学の授業はわかる」、「数学の授業では、ノートをまとめたり、話し合ったり、先生の話をよく聞くことなどで、自分の考えが深まったり、広がったりする」の項目で肯定的な回答を1学期に実施する調査結果よりも2学期に実施する調査結果で2ポイント以上増加させる。	
取組内容②【知識・技能の育成】 1年生は1学期、2年生は2学期、3年生は3学期に習熟度別授業を行い、基礎的な知識、技能の育成を図る。	A
指標 校内調査において、「数学の習熟度別授業は好き」「数学の習熟度別授業は楽しい」「数学の習熟度別授業はよくわかる」の項目で、肯定的な意見を7割以上にする。	
取組内容③【思考力・判断力・表現力の育成】 個に応じた学習指導、生徒同士の学びあいを推進し、思考力や判断力、表現力を育てる機会を確保し、育成を図る。	A
指標 定期テストにおいて、数学的な見方、考え方に関する問題の正答率が2割未満である生徒の割合を全体の3割以下にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後の改善点
・取組内容①について 1学期に行われた教科アンケートの「数学の授業はわかる」について肯定的に回答する生徒の割合は、1年生90.0%、2年生78.3%、3年生72.8%となっている。また、「数学の授業では、ノートをまとめたり、話し合ったり、先生の話をよく聞くことなどで、自分の考えが深まったり、広がったりする」について肯定的に回答する生徒の割合は、1年生82.0%、2年生77.6%、3年生81.6%となった。 ・取組内容②について 1学期は2年生が習熟度別授業をおこなっている。1学期に行われた教科アンケートの「数学の習熟度別授業は好き」について肯定的に回答する生徒の割合は75.9%、「数学の習熟度別授業は楽しい」について肯定的に回答する生徒の割合は88.8%、「数学の習熟度別授業はよくわかる」について肯定的に回答する生徒の割合は85.8%となり、全項目で指標を上回る結果となった。 ・取組内容③について 定期テストでは、考え方に関する問題の正答率が2割未満である生徒の割合は、1年生25.6%、2年生27.3%、3年生13.6%となり、指標を上回る結果となった。

今後も継続して取組をおこなっていく。

【理科】

年度目標	達成状況
<p>○実験や観察を多く取り入れた実感にともなった授業を行い、「理科の授業はわかる」という生徒を増やす。調査での平均点を65点以上かつ、標準偏差が小さい集団の育成を目指す。</p> <p>○チャレンジテストやチャレンジテストプラスの結果にて、大阪府の平均点を超える。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【主体的・対話的で深い学びの実現】 実験・観察を行い、生徒が自ら事象について触れ考える機会を設ける（演習実験含む）。</p> <hr/> <p>指標 単元ごとに実験を平均して2回行う。</p>	A
<p>取組内容②【知識・技能の育成】 基礎・基本的学力の定着をさせるため、朝の学習や授業内での既習事項の復習問題に取り組む時間の確保と、指導を徹底する。</p> <hr/> <p>指標 令和7年度2学期末テストにおいて、各学年の平均点を65点以上にする。</p>	-
<p>取組内容③【思考力・判断力・表現力の育成】 記述問題に正答する表現力を習得させるため、実験の考察を書かせたり、副教材等を利用して記述練習をさせたりと、回答の指導を徹底する。</p> <hr/> <p>指標 令和7年度2学期末テストにおいて、各学年集団の記述式問題の無回答率を10%以下にする。</p>	-
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後の改善点	
<p>取組内容①について、 実験はどの学年もしっかり各単元、平均して2回以上の実験や観察をすることができているので、継続して実験観察を大事にした授業を行っていく。</p> <p>取組内容②について、 朝の学習や授業内でドリルプリントを配布するなどして復習問題に取り組ませている。以後、継続していく。</p> <p>取組内容③について、 実験レポートで考察などを生徒に書かせたり、グループで話し合う機会を設けたりして、表現力を養うような機会をつくっている。教師が記述例を提示したり、生徒のお互いの考えを共有させたりすることで、記述問題に苦手意識を持つ生徒を減らすような指導をしていく。</p>	

定期考査では、学習範囲が限定されるという教科の性質上、生徒にとって理科は取り組みやすい科目である。そのため、他教科と比べると比較的高い平均点を取ることができている。小さな「わかる」を積み重ねていきたい、

【音楽】

年度目標	達成 状況
○合唱コンクールや文化発表会を通して、豊かな感性を養う。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
取組内容①【主体的・対話的で深い学びの実現】 ペアやグループ、パートに分かれてなどの活動を多く取り入れ、生徒が主体的に学ぶ機会を増やす。	A
指標 教科アンケートの「授業では自ら進んで学んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を70%以上にする。	
取組内容②【知識・技能の育成】 発声練習や運指練習、楽典の確認などを定期的に行い、知識・技能の定着をめざす。	A
指標 教科アンケートの「音楽の授業は分かる」の項目で、肯定的な回答の割合を70%以上にする。	
取組内容③【思考力・判断力・表現力の育成】 思いや意図をもって表現を工夫し、それを発表する機会を増やす。	A
指標 教科アンケートの「先生の話聞くことで、表現の仕方を工夫している」の項目に関して、肯定的な回答の割合を70%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後の改善点	

はじめに、今年度より教科アンケートが廃止となったため、指標を授業アンケートに読み替えて分析することとする。

① 【主体的・対話的で深い学びの実現】

② 【思考力・判断力・表現力の育成】

7月実施の授業アンケートにおいて、「興味・関心・意欲の向上」項目の肯定的回答が94%となっており、「授業では自ら進んで学んで」「先生の話聞くことで、表現の仕方を工夫している」生徒が7割以上いるため、現時点で指標を達成できているとする。

③ 【知識・技能の育成】

同じく上記アンケートにて「学習内容の習得」項目の肯定的回答が96%となっており、「音楽の授業は分かる」と感じる生徒が7割以上おり、現時点では指標を達成できているとする。

現在、10月末に行われる合唱コンクール、文化発表会に向けて、パート練習や隊形練習、発声練習などを取り入れた授業を進めている。その中でも、思いや意図をもって表現ができるよう取り組む子ども達の姿は、とても真剣で熱意に溢れている。数字だけではなく、真の豊かさを求めて取り組みを続けたい。

【美術】

年度目標	達成状況
○教科を通して、自分とは異なる様々な個性の発見と理解、共感する気持ちを養い人として豊かに生きる心を育む。 ○作品発表の場を多くもうけることで、表現することの喜びを感じさせる。	—

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【主体的・対話的で深い学びの実現】 第1学年において、グループワークを通して互いの意見の交流や作品制作の理解を深める。	B
指標 表現活動を通して「自分の考えが深まったり広がったりする」項目において、肯定的意見を80%以上(昨年度の目標70%)になるように取り組む。	
取組内容②【知識・技能の育成】 表現活動における知識・技能を実演や映像を用い、感覚的に理解しやすいようにする。	B
指標 授業アンケートの「美術の授業はわかる」の肯定的回答を85%以上(昨年度目標75%)にする。	
取組内容③【思考力・判断力・表現力の育成】 制作のみならず、相互の作品鑑賞や作家の作品鑑賞を通して自ら感じる心や考える力を育む。	—
指標 校内展示や発表会等の機会を使い、作品鑑賞を行い、相互理解に努める。 教科アンケート「美術は好き」の項目の肯定的な回答を85%以上(昨年度目標75%)にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後の改善点
<p>① 【主体的・対話的で深い学びの実現】</p> <p>1 年生では個人制作しながらグループワークで作品を完成させて発表する事で、学級の仲間づくりに役立てることができた。</p> <p>② 【知識・技能の育成】</p> <p>取り組みの内容を視覚的にわかりやすく伝えるようにしている。</p> <p>③ 【思考力・判断力・表現力の育成】</p> <p>2 学期の文化発表会に向けて、授業作品や学年展示制作も発表に向けて取り組んでいる。発表後の相互鑑賞を通して、制作意欲向上につなげていく。</p>

【保健体育】

年度目標	達成状況
<p>○授業を通じて運動の楽しさや重要さに気づき、積極的に運動に取り組む生徒を増やす。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男女とも長座体前屈の個人記録を6割以上向上させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【主体的・対話的で深い学びの実現】</p> <p>各単元において課題克服に向けて班別練習を行い、アクティブ・ラーニングを通じて主体性を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和7年度末までに教科アンケートの「授業では自ら進んで学ぼうとしている」項目に関して、肯定的な回答が前回のアンケート結果より上回るようにする。</p>	—
<p>取組内容②【知識・技能の育成】</p> <p>補強運動の負荷を高めるとともに各単元で柔軟性を高める運動を積極的に取り入れる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>男女とも長座体前屈を年2回計測し、記録の向上した生徒の割合を6割以上になるようにする。</p>	—
<p>取組内容③【思考力・判断力・表現力の育成】</p> <p>プリント（ノート）での予習や振り返りを行い、自分の思いや考えを表現する機会を増やす。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和7年度末までに教科アンケートの「授業ではノートをまとめたり、話し合ったり、先生の話聞くことなどで、自分の考えが深まったり、広がったりする。」項目に関して、肯定的な回答が前回のアンケート結果より上回るようにする。</p>	—

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後の改善点
<p>② 1 回目の計測を 4 月に行った。まだ 2 回目の計測をしていないが、最終評価のときには 4 月の記録から向上できるように、準備運動での柔軟を意識して取り組ませる。</p> <p>① ③に関しては、3 学期に教科アンケートを実施する。</p>

【技術・家庭】

年度目標	達成状況
<p>○教科の特性を生かし、実習を通して基礎的・基本的な知識及び技能を習得するとともに生活と技術や家庭の機能について理解を深める。</p> <p>○自ら進んで生活をよりよいものにする能力や態度を育てる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【主体的・対話的で深い学びの実現】</p> <p>最低限の感染対策を踏まえた上で班活動を取り入れ、個人の学習も共に学び制作する楽しさも感じてもらえるような授業づくりを意識する。役割分担や係ごとの話し合いを行うなどの活動も充実させ、題材を学ぶ意味を深く捉え直させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>班や役割分担・係などで情報を共有することにより理解を深め、アンケート項目における「授業中の活動を通して、自分の考えが深まったり、広がったりする」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【知識・技能の育成】</p> <p>授業で学んだ内容を深めるため ICT 機器を取り入れながら実習し、意欲的に活動できるような教材の選定を行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。また、3 年生の授業を分割しきめ細やかな指導を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>作品・提出物の提出率を 85%以上にする。アンケートの「実習での活動を通して知識・技能を高めることができた」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【思考力・判断力・表現力の育成】</p> <p>作品の製作や実習の経過を記録し実践レポートを提出することで、授業で学んだ内容を自分達の生活と結び付けやすくする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>アンケート項目における「授業で学習したことを自分の生活で生かしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 70%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後の改善点
<p>当初は教科アンケートをもとに目標を設定していたが、途中で学校評価生徒アンケートへと変更となった。質問項目が異なるため単純な数値比較は難しいものの、これまでの実践を振り返りつつ生徒の意識の変化を今後の授業改善に活かしていきたい。</p> <p>【主体的・対話的で深い学びの実現】</p> <p>7月の学校評価生徒アンケートの「32. 各教科においてノートにまとめたり、話し合ったり、先生の話をよく聞くことで、自分の考えがふかまった」において87%（1年86%、2年89%、3年87%）の肯定的な回答が得られた。今後も生徒が自分の考えを深められるような活動を意識して取り入れていきたい。</p> <p>【知識・技能の育成】</p> <p>作品・提出物の提出率は85%以上を継続している。引き続き継続指導を行い、実習での活動を通して知識・技能の向上につなげていく。</p> <p>【思考力・判断力・表現力の育成】</p> <p>7月の学校評価生徒アンケートの「15. 私は、仲間と協力して、課題を解決するようにしている」という項目において84%（1年83%、2年84%、3年84%）の肯定的な回答が得られた。今後も協力的な学びを促しながら継続指導を行っていく。</p>

【英語】

年度目標	達成状況
<p>○本年度のチャレンジテストでも学年平均点を府平均以上の点数にする。</p> <p>○基礎・基本を重視しつつ、高度な内容も含む授業を展開し、学力の伸長を図る。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【主体的・対話的で深い学びの実現】</p> <p>書くこと・覚えることを徹底することや外国文化の紹介を通じて、自らの意見を英語で表現する力を養う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和7年度教科アンケートの「英語の授業では、ノートにまとめたり、話し合ったり、先生の話聞くことなどで、自分の考えが深まったり、広がったりする。」という項目を前年度より向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【知識・技能の育成】</p> <p>各学期で期間を設定して習熟度別授業を行い、基礎的な知識、技能の育成を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>校内調査において、「英語の習熟度別授業はわかりやすい」の項目で、肯定的な意見を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【思考力・判断力・表現力の育成】</p> <p>リーディングやリスニングに意欲的に取り組ませ、各学年ともリスニングテストを原則的に定期・実力テスト毎に実施する。</p>	B

C-NET との授業により、理解・表現能力の向上を図る。(1 年は 1 学期、2 年は 2 学期、3 年は 3 学期に行う。)	
<div>指標</div> <div>リスニングテストにおいて、平均 6 割以上を目指す。</div>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析、今後の改善点	
<p>予期せざる減員により、充実した教科内容の教授に注力せざるを得ず、指標とすべきアンケートは実施できていない。2 学期以降の実施も覚束なく、指標を小テストを含むテスト結果に変更する。</p> <p>但し、同じく指標であるリスニングの正答率は 7 割を超え順調である。</p> <p>① 【主体的・対話的で深い学びの実現】 C-net の授業を 1 学期に 1 年、2 学期に 2 年生で予定通り週一度実施し、特に対話的な学びの基盤を構築し始めることが出来た。</p> <p>② 【知識・技能の育成】 小テストを実施することで、基礎的な知識の定着を促進出来た。</p> <p>③ 【思考力・判断力・表現力の育成】 通常授業・小テストでも思考力・判断力を問う問題を課し、表題の力を育成する端緒とすることが出来た。</p>	